

## 請求の範囲

1. 膜結合型酵素、該膜結合型酵素の基質、膜結合型酵素活性化因子、膜結合型輸送蛋白質、チャネル蛋白質、膜の構造蛋白質、接着関与蛋白質、抗原提示に関わる蛋白質、又は蛋白質の高次構造形成に関わる蛋白質から選択される蛋白質をコードする遺伝子を含む少なくとも1種の組換えバキュロウィルスに感染させた宿主を培養することにより該蛋白質を発現させる方法において、該宿主から放出される発芽バキュロウィルス中に該蛋白質を発現させる方法。

2. 膜結合型酵素、該膜結合型酵素の基質、膜結合型酵素活性化因子、膜結合型輸送蛋白質、チャネル蛋白質、膜の構造蛋白質、接着関与蛋白質、抗原提示に関わる蛋白質、又は蛋白質の高次構造形成に関わる蛋白質から選択される蛋白質をコードする遺伝子を含む組換えバキュロウィルスに感染させた宿主を培養し、該宿主から放出される発芽バキュロウィルスを回収し、該発芽バキュロウィルスから発現蛋白質を回収することを含む、蛋白質の調製方法。

3. 膜結合型酵素、該膜結合型酵素の基質、膜結合型酵素活性化因子、膜結合型輸送蛋白質、チャネル蛋白質、膜の構造蛋白質、接着関与蛋白質、抗原提示に関わる蛋白質、又は蛋白質の高次構造形成に関わる蛋白質から選択される蛋白質が、細胞内小器官の膜結合蛋白質である、請求項1に記載の方法。

4. 膜結合型酵素、該膜結合型酵素の基質、膜結合型酵素活性化因子、膜結合型輸送蛋白質、チャネル蛋白質、膜の構造蛋白質、接着関与蛋白質、抗原提示に関わる蛋白質、又は蛋白質の高次構造形成に関わる蛋白質から選択される蛋白質が、細胞内小器官の膜結合蛋白質である、請求項2に記載の方法。

5. 膜結合型酵素、該膜結合型酵素の基質、膜結合型酵素活性化因子、膜結合型輸送蛋白質、チャネル蛋白質、膜の構造蛋白質、接着関与蛋白質、抗原提示に関わる蛋白質、又は蛋白質の高次構造形成に関わる蛋白質から選択される蛋白質が、SREBP 2、HMG-CoA還元酵素、S1P、又はSREBP cleavage activating proteinである、請求項1に記載の方法。

6. 膜結合型酵素、該膜結合型酵素の基質、膜結合型酵素活性化因子、膜結合型輸送蛋白質、チャネル蛋白質、膜の構造蛋白質、接着関与蛋白質、抗原提示に関わる蛋白質、又は蛋白質の高次構造形成に関わる蛋白質から選択される蛋白質

質が、SREBP 2、HMG-CoA 還元酵素、S 1 P、又は SREBP cleavage activating protein である、請求項 2 に記載の方法。

7. 宿主が昆虫細胞又は昆虫幼虫である、請求項 1 に記載の方法。

8. 宿主が昆虫細胞又は昆虫幼虫である、請求項 2 に記載の方法。

9. 膜結合型酵素、該膜結合型酵素の基質、膜結合型酵素活性化因子、膜結合型輸送蛋白質、チャネル蛋白質、膜の構造蛋白質、接着関与蛋白質、抗原提示に関わる蛋白質、又は蛋白質の高次構造形成に関わる蛋白質から選択される蛋白質をコードする遺伝子を含む少なくとも 1 種の組換えバキュロウィルスに感染させた宿主が放出する、発芽バキュロウィルス。

10. 請求項 9 に記載の発芽バキュロウィルスを用いて、上記蛋白質とその他の化学物質との相互作用を測定すること含む、化学物質のスクリーニング方法。

11. 膜結合型酵素、該膜結合型酵素の基質、膜結合型酵素活性化因子、膜結合型輸送蛋白質、チャネル蛋白質、膜の構造蛋白質、接着関与蛋白質、抗原提示に関わる蛋白質、又は蛋白質の高次構造形成に関わる蛋白質から選択される蛋白質に対する阻害薬または活性化薬物をスクリーニングする、請求項 10 に記載の方法。

12. 膜結合型酵素、該膜結合型酵素の基質、膜結合型酵素活性化因子、膜結合型輸送蛋白質、チャネル蛋白質、膜の構造蛋白質、接着関与蛋白質、抗原提示に関わる蛋白質、又は蛋白質の高次構造形成に関わる蛋白質から選択される 2 種類以上の蛋白質をコードする遺伝子をそれぞれ含む異なる 2 種類以上の組換えバキュロウィルスを共感染させることにより、上記 2 種類以上の蛋白質の機能を同時に発現させ、該機能を活性化又は抑制する化学物質をスクリーニングする方法。

13. 請求項 9 に記載の発芽バキュロウィルスを免疫原として用いることを特徴とする、膜結合型酵素、該膜結合型酵素の基質、膜結合型酵素活性化因子、膜結合型輸送蛋白質、チャネル蛋白質、膜の構造蛋白質、接着関与蛋白質、抗原提示に関わる蛋白質、又は蛋白質の高次構造形成に関わる蛋白質から選択される蛋白質に対する抗体を作製する方法。

14. 請求項 13 に記載の方法により作製される抗体。